技術・家庭科研究主題

技術・家庭科における「見方・考え方」を働かせた深い学び（２年次）

ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング
～WebＡＰＩを取り入れてデータを活用する授業実践～（技術分野）
家庭分野における資質・能力を育成する授業の展開
～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～（家庭分野）

山主　公彦　　山本　裕子

１．研究主題設定の理由

これまでの学習指導要領の成果と課題を中央教育審議会答申では次のように明らかにしている。技術分野においては，社会，環境及び経済といった複数の側面から技術を評価し具体的な活用方法を考え出す力や，目的や条件に応じて設計したり，効率的な情報処理の手順を工夫したりする力の育成について課題があるとの指摘がある。また，社会の変化等に主体的に対応したり，より良い生活や持続可能な社会を構築していくため，技術の発達を主体的に支え，技術革新を牽引することができるよう技術を評価，選択，管理・運用，改良，応用することが求められる。

家庭分野においては，普段の生活や社会に出て役立つ，将来生きていく上で重要であるなど，生徒の学習への関心や有用感が高いなどの成果が見られる。一方，家庭生活や社会環境の変化によって家庭や地域の教育機能の低下等も指摘される中，家族の一員として協力することへの関心が低いこと，家族や地域の人々と関わること 家庭での実践や社会に参画することが十分ではないことなどに課題が見られる。家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて，グローバル化や少子高齢社会の進展，持続可能な社会の構築等，今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが求められる。

現在の子供たちやこれから誕生する子供たちが，成人して社会で活躍する頃には，我が国は厳しい挑戦の時代を迎えていると予想される。生産年齢人口の減少，グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により，社会構造や雇用環境は大きく，また急速に変化しており，予測が困難な時代となっている。また，急激な少子高齢化が進む中で成熟社会を迎えた我が国にあっては，一人一人が持続可能な社会の担い手として，その多様性を原動力とし，質的な豊かさを伴った個人と社会の成長につながる新たな価値を生み出していくことが期待される。

今日の学校教育では，時代が大きく変わる中，子供たちがこれから生きていく時代に向けて，そこで求められる資質・能力を明確にすることが重要となる。資質・能力は新学習指導要領では「何を理解しているか，何ができるか」「理解していること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界とかかわり，よいよい人生を送るか」という三つの柱に沿って，育てるべき資質・能力を整理し，教育課程の枠組みを考える必要があるとされている。また，学校教育における質の高い学びを実現し，学習内容を深く理解し，資質・能力を身に付け，生涯にわたって能動的に学び続けるようにするために，「主体的・対話的で深い学び」を求めている。この視点は，学びの過程としては一体として実現されるものであり，活動はあるが学びが欠けるような表面的な学びに陥らないように「深い学び」の視点は重要とされている。この深い学びに大きく関わるのは各教科等の特質に応じた「見方・考え方」である。研究の１年目は，「見方・考え方」をより明確化，具体化していきたいと授業実践を提案してきた。今後，明確にしてきた資質・能力を育てるためには，生徒の学習状況を適切に評価して，教師は指導の改善に，生徒は学習の改善に生かして，学びの質を高めていくことが求められている。本年度は資質・能力を育成させるために教育評価について検討していくこととする。

【家庭分野】

２．研究の目的

本年度の研究目標　『家庭分野における資質・能力を育成する授業の展開
～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』

昨年度まで全体研究『新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』のもと研究を行い，技術・家庭科（家庭分野）における「見方・考え方」を働かせた学びを行う手段として，批判的思考を取り入れた授業，またその批判的思考を相手に前向きな形で伝えるための工夫として，ＲＴＤを取り入れ授業を行ってきた。

本年度の全体研究では，『「見方・考え方」を働かせた学びを通して，育成した資質・能力を見取る評価の在り方』について研究する。評価方法の工夫においては，ワークシートや話し合い活動から既有知識だけでなく，学びを通してさらに考えが深まったかを評価していくために，生徒の考えが可視化できるワークシートの工夫を図っていきたい。

３．これまでの研究経過

平成２６年度～平成２８年度　「工夫し創造する能力の深化」

平成２６年度　「これからの生活を展望できる学習内容の工夫」（A 家族・家庭と子どもの成長）
平成２７年度「深く考え，生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」
（C 衣生活・住生活と自立）
平成２８年度「深く考え，生活をよりよくしようとする能力と態度の育成」（B 食生活と自立）

平成２９年度～　「技術・家庭科における「見方・考え方」を働かせた深い学び」
平成２９年度「主体的な学びを育成する授業の展開　～RTD による批判的思考を取り入れた授業～」
(D 身近な消費生活と環境)

平成２９年度から，研究１年目として新たな全体研究のテーマ『新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』の実現のため，技術・家庭科（家庭分野）では，「主体的な学びを育成する授業の展開」を主題として設定し，研究を行っていくこととした。

昨年度は，附属中オリジナルグッズをプレゼンする内容で授業を行った。本研究のテーマである「見方・考え方」を働かせた学びを「持続可能な社会の構築」の視点で捉え考えさせた。また，「見方・考え方」を働かせた学びに必要な手立てとして，RTD の手法を取り入れ，授業の展開の中で３つのカード（応援カード・スパイカード・ネガティブカード）を取り入れた。このカードを使うことによって，他者の意見を受け入れたり，批判的な視点を持ちながらも，お互いにどうしていけばよりよい商品にできるかを考えることができたりと，自分たちの思っていることを素直に言うことのできる雰囲気を作ることができた。しかし，本時の授業ではその批判的な意見が「値段重視」になってしまい，「持続可能な社会の構築」の観点から離れてしまう結果となってしまった。批判的な意見を取り入れる場面を，もう少し具体的に示すことができたらよかったと思う。

４．研究の内容（全体研究との関わり）

昨年度から次期学習指導要領改訂に伴い，全体研究において『新たな世界を主体的に創造する生徒の育成～「見方・考え方」を働かせた学びを通して～』という主題で研究を行ってきた。

技術・家庭科（家庭分野）における「新たな世界を主体的に創造する」とは、家庭科において、「生活していく上で出てきた課題を、自らの経験と学んだ知識・技能を活用しながら解決していくこと」とした。この中には、生徒同士の話し合い活動から考えを深めたり、実際に実験や体験をして得られる知識も含まれている。授業においては、基礎基本を確実に定着させると同時に、自らの

経験や、新たに学ぶ知識を融合させながら授業展開を考えていく必要がある。また、この「新たな世界を主体的に創造する」ためには、技術・家庭科（家庭分野）における「見方・考え方」を活用した学びを通して，育成させたい資質・能力も明確にし，育成した資質・能力を見取るための工夫も必要となってくる。

（１）技術・家庭科（家庭分野）における「見方・考え方」について

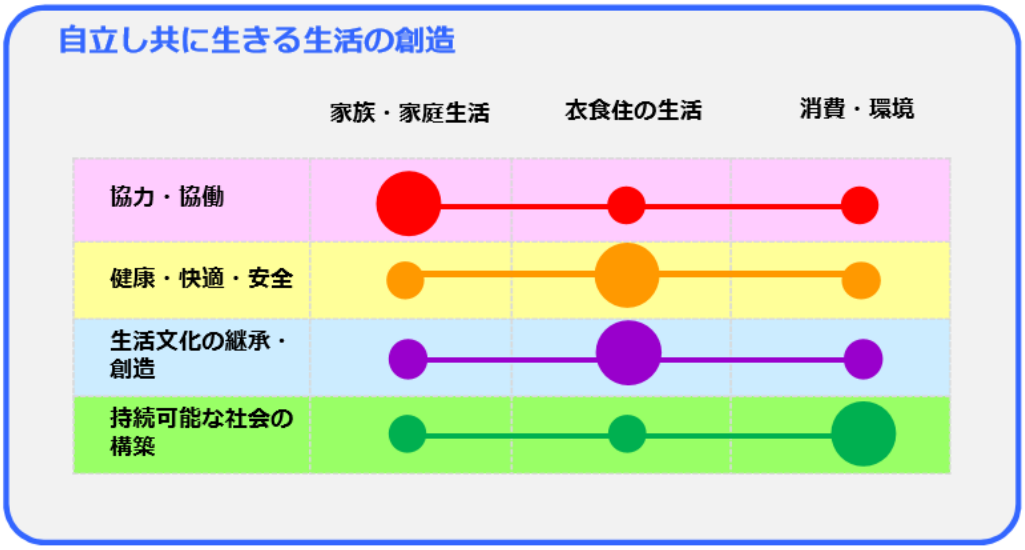
「新学習指導要領解説（H29 年）」では，技術・家庭科（家庭分野）における「見方・考え方」を以下のように示している。

「生活の営みに係る見方・考え方」

⇩

「家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること」

〇家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象について、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点から解決すべき問題を捉え、よりよい生活の実現に向けて考察すること。



（２）「見方・考え方」を働かせた学びを通して，技術・家庭科（家庭分野）で目指す具体的な生徒の姿

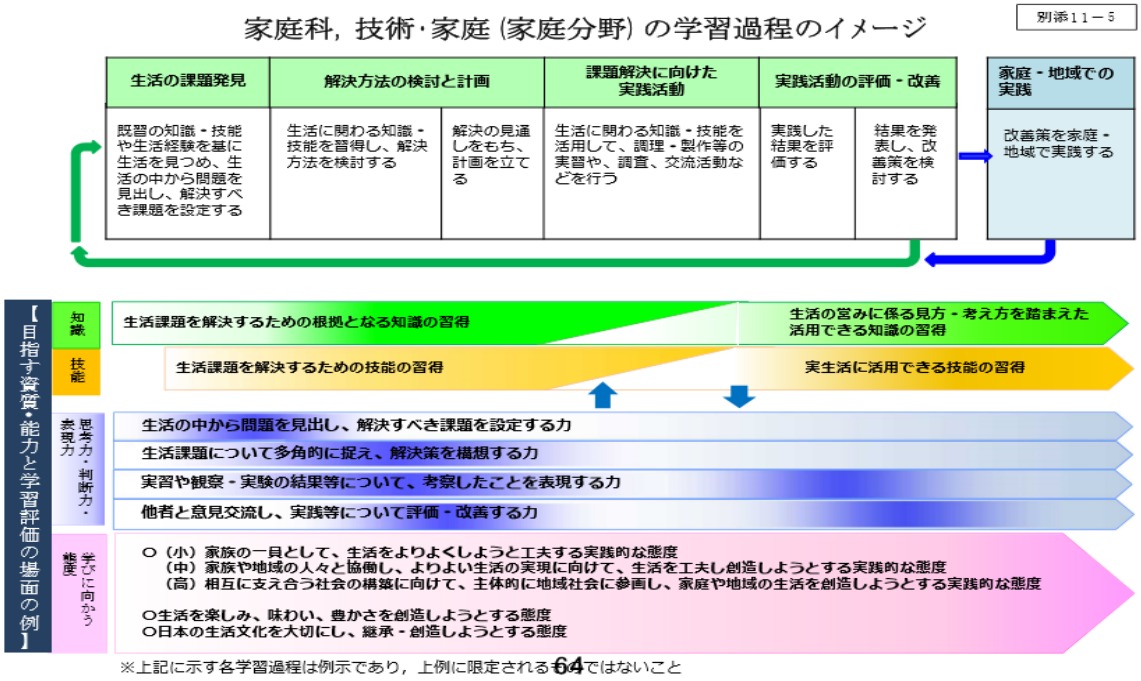
「学習指導要領（Ｈ２９年）」では，技術・家庭科（家庭分野）において育成を目指す資質・能力を以下のように整理し，示している。

（１）家族・家庭の機能について理解を深め，家族・家庭，衣食住，消費や環境などについて，生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。

（２）家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，考察したことを論理的に表現するなど，これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。

（３）自分と家族，家庭生活と地域との関わりを考え，家族や地域の人々と協働し，よりよい生活の実現に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

さらに、「技術・家庭科（家庭分野）で育成することを目指す資質・能力」は『「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせつつ，生活の中の様々な問題の中から課題を設定し，その解決を目指して解決方法を検討し，計画を立てて実践するとともに，その結果を評価・ 改善するという活動の中で育成できると考えられる。』とある。（以下，技術・家庭科（家庭分野）の学習過程のイメージ）



これらのことから，全体研究「新たな世界を主体的に創造する生徒の育成」において，「見方・考え方」を働かせた学びを通して，技術・家庭科（家庭分野）で目指す具体的な生徒の姿と，本校家庭科における身につけさせたい資質・能力を以下のように考えた。

目指す生徒の姿
自らの生活経験と学んだ知識・技能を相互に関わらせ，よりよい生活の実現に向けて自らで課題を解決しようとする生徒

身につけさせたい資質・能力
○基礎的・基本的な知識と，それらに係る技能の習得（知識・技能）
○習得した知識・技能を活用し，実践を通して課題解決しようとする力（思考力・判断力・表現力等）
○他者との関わりを通して，将来にわたって生活を工夫し創造しようとする実践的な態度
（学びに向かう力・人間性等）

これからの社会は予測困難であると言われている。だからこそ技術・家庭科（家庭分野）で，これからを生きていくために必要な，「実践的・体験的な活動を通して，自らで課題を見つけ，設定し，それを解決していく力をつけていく」ことは，必要不可欠になってくる。普段の生活の中で多くの疑問や課題に直面した時，自らで考え結論を出していかなくてはならない。そのためには身につけさせたい資質・能力を明確にし，授業を展開する必要があると考える。

（３）技術・家庭科（家庭分野）における形成的評価の工夫

技術・家庭科（家庭分野）における形成的評価を，「生徒が生活の課題を解決するための解決方法がどうか」を見直すために用いていきたいと考えている。上記にある学習過程のイメージにおいて，自らの経験や学んだ知識・技能がどのように活用され課題解決を図っていくのか，また「対話

的な学び」を通して，他者の意見を参考にしながら自らの考えを明確にしていき，生徒自身が解決方法を見直すための評価として捉えていきたい。

（４）育成した資質・能力を見取るための工夫

資質･能力を見取るための工夫として，題材の最後の授業で，今まで学習してきたことを生かし，「見方・考え方」を働かせて考えることができているか，ワークシートの記入の様子から見取っていきたいと考えている。そのためには，生徒の考えを可視化できるようワークシートの工夫を考えていきたい。